

京大病院 リスクマネージャーのみなさま、こんにちは。
本日のテーマは、患者参加です。

項目：

1. 患者（医療）安全への患者参加
2. インフォームド・コンセント

1. 患者（医療）安全への患者参加

WHO（世界保健機関）は、Patients for patient safety（PFPS）という活動を2005年から展開しています。毎日、世界では、何千人もの患者さんが医療による害をうけています。

自分自身が受ける医療に積極的に関わりましょう。
情報を得て、質問しましょう。

あなたの病歴について医療者にしっかりと伝えましょう。

そのようなキャンペーンが世界各国でなされています。

Patient engagement for patient safety

Every day thousands of patients suffer harm in health care



Be actively involved in your own care



Be informed, ask questions.



Provide full information about your medical history



Speak up
for patient safety!



World Health
Organization



World
Patient Safety
Day 17 September 2019

2. インフォームド・コンセント

京大病院では、「インフォームド・コンセント」に力を入れています。患者さんが説明を受けて、納得して、治療を選択できる環境を作るための絶え間ない努力をしています。

患者さん向けの説明文書は、ダブルチェックをして作っています。まず、その医療の専門家が、文書を作ります。それを医療安全管理室長（インフォームド・コンセント責任者を兼務）が、異なる視点で確認しています。違った立場の医療者がダブルチェックすることで、少しでもわかりやすくなることを目指しています。

異なる視点とは・・・

- ① 非専門家（一般の人）が読んでわかるか。
- ② その医療のメリットが明白に記載されているか。
- ③ リスク情報が適切に記載されているか。
- ④ 必要に応じて、長期の見通し（予後）が記載されているか。

いくつかの診療科では、説明の文書を事前に読んでもらったり、動画を事前にみたりして、医療の内容について、ある程度理解してもらってから、説明するという試みをしています。

教育の世界でも反転学習という方法があります。事前に自己学習（予習）で知識を得ておいて、授業では、ディスカッションを通じて、知識を定着させ、アウトプットする方法です。

医療安全管理室のホームページには、患者さんへの情報提供のページがあります。ここには、動画や説明文書が提供されています。

<https://safety.kuhp.kyoto-u.ac.jp/general/>

全く分からないことを初めて聞くよりも、少し、勉強しておいて、分からない部分を明確にしておいてから、話をすると、質問のポイントが分かりやすですね。

医療安全管理室では、医療事故調査の検証・分析・再発防止を患者さんに説明する際に、まさに、この反転学習の仕組みを取り入れています。事前に患者さんに文書を送ります。そして、説明会当日は、簡単に説明した後に、質問を受けます。どこが、一番、疑問に思っているか、患者さんからのご意見を伺います。

事故調査ですので、患者さんにとって残念な結果になった場合の説明です。何があったのか、なぜ、この結果になったのか、今後の再発防止として何を行うのか、等を説明します。

患者さんと一緒に、再発防止策を考えることもあります。患者さんの中にも企業の安全管理に関わっておられる方もいて、教えていただくこともあります。

また、インフォームド・コンセントの場に看護師等、医師以外の職種が積極的に同席できるように、いろいろと準備中です。同席者に、一緒に考えてもらうと、患者さんは力を得る（エンパワーされる）と思います。看護師は、他の患者さんの経過も診てきています。患者さんが、治療後の経過について、看護師にも聞いてみたいと考えるのではないのでしょうか。

医師以外の医療者の同席が必要な医療行為は、各診療科で医師と看護師が話し合っ、決定しています。公開フォルダにありますので、どうぞご確認ください（各科 IC 同席考え方）。

場所：KING7>アプリー覧>公開フォルダ>81 安全管理室
※ 同席対象を見直したい場合は、IC 責任者にご連絡ください。

インフォームド・コンセントについては、IC 場面を経験した入院患者さんを対象に、年数回、アンケートを行っています。

<https://safety.kuhp.kyoto-u.ac.jp/medical/quality/>

こちらに「医療の質指標 IC」がありますので、よろしければ、患者さんの声に耳を傾けてください。

概ね高評価ですが、改善の機会になるご意見もいただいています。

世界的な活動である PFPS のひとつとしても、インフォームド・コンセントは重要です。説明文書は知識の整理に役立ちます。その上で、自分にとってのリスクを聞いて、患者さんの判断で、治療を受けるかどうかを決定します。

WHO は、薬物治療を受ける患者さんが、医療者にどのタイミングで何を尋ねたらよいか、ということを教えるための教材を提供しています。

<https://www.who.int/initiatives/patients-for-patient-safety>

薬物治療への患者参加は、難しいことではありません。適切にリスクを認識して、患者さんご自身がリスク回避の行動がとれるとよいですね。

* 今回は、「患者安全への患者参加」についてお伝えしました *

